

江頭	①定型発達の子どもが感情をコントロールできるようになるまでには、どのような発達過程があるのでしょうか。	プレゼン参照
	②子どものこだわりなどは定型発達の過程でもみられるものなのでしょうか。	こだわりとは…一つのこと強く心を惹かれ、妥協せずに深く追求すること。ポジティブ、ネガティブの2種あります。
薄ヶ谷	①年齢相応の発達にはどのくらいの個人差があるのか。	身体障がい、知的障がいの程度、発達障がいの程度など、特性による個人差は千差万別です。
	②集団の中で定型発達児が感じやすいストレスとは	人間関係・環境・生活リズム・感情表現・発達関連 人間関係・集団生活・分離不安・感覚刺激・見通しのなさ・自己表現・自立へのプレッシャー・評価や比較・家庭環境・発達上の葛藤・行事・イベント
	③ 定型発達の子どもへの声かけと、特性のある子への声かけで意識する違い	なんの目的で、なんの声かけをするのか、を意識することが重要です。 それは、どんな特性によって何を配慮するかで変わってくる
片山	①発達には個人差がある中で経験不足、環境からで少し遅れているだけなのか？そもそもの特性なのか見分けかた？タイミング？が難しいです。	把握が原則、発達の促しをする際、①発達を阻害するリスクを取り払う必要+②その差を本人がどう向き合うか（向き合うことをどうサポートするか）
	②それぞれ個性がある中で定型発達を目安にしながら近づけていくべきなのか？得意にできることを伸ばし、強みにできる支援を大切にしたいと思うのですが、保護者様に対しての言葉かけ、対応の仕方が難しいです。	保護者の前では、「定型発達に近づけていく」という文言は使わない、この視点を取りたてて意識しないことに留意したい。また、凸凹を均すことに過剰に注力しない。一方で、近づくのであれば近づく支援は必ず必要。保護者に宣言する必要はないが、その支援力をもつことが重要。
澁田	①“よく動く子”“不器用な子”など、気になる様子があっても定型発達の範囲内である場合、どのような視点で見極めればいいのでしょうか？	最も重要なことは、「アセスメント」いわゆる『見立て』。つまり個別支援計画。何の課題を取り上げて、どのように取り組むのか（可能な限り本人も意識できるとなおい）を明確にして取り組むとよい。このとき、将来的に取り組む課題は何か、その順序性などを職員、保護者間で共有できていることが必要

	②“発達の個人差”と“支援が必要なサイン”の境界はありますか？？	言ってみれば、生活上の具体的な支障が生まれているか？です。そして、これを考えるのも『見立て』です。正解はないかもしれないけれど、職員間、保護者間での共有が肝。
服部	①定型発達は平均的傾向を示す一方で個人差も大きいですが、臨床現場で「支援が必要な偏り」と「個性」の境界をどう見立てるべきでしょうか。	同上。コーチングの視点から考えると、支援が必要な偏りであっても本人が課題意識を持っており、自らの力で取り組んでいるのであれば、しっかり見守りするのがむしろ権利擁護からも大切。生活上の支障が生まれているとするのなら、①その支障に気づく支援を本人と一緒に取り組む、②支援の内容を専門家として見立てる、③子どもと一緒にその課題解決に向けて取り組む、という流れになる。
	②「定型発達との差」を保護者に説明する際、不安を煽らず理解を促すためにどうしたらいいでしょうか。	「不安を煽り過ぎない」は注力したいですが、状況によっては、不安（危機感）を感じてもらうことも必要な場合があると思います。そう考えると、いわゆる専門職（OT,PT,ST,保育,心理,行動学など）としてのエビデンスを持っておくといいと思います。私たち個人の経験から「・・・と思います」も多々発信しますが、「・・・の事実（データ）が・・・に示されていました」や「・・・と、あるお母さんがおっしゃっていました」の伝え方は、一個人の価値観の押し付けにならず、その事実をインプットしたお母さんの意思決定を尊重した対応となると考えています。（エビデンスこそAIの活用を）
大平	①発達段階が違う子どもたちを一斉に療育する時のコツ（企画も含めて）を学びたいです。	よくばりですねえ(笑) どこまで一斉で通せて、ここから以上は、小グループでとか、個別でとかの経験を積むしかないと思います。トライ＆エラーで。ただ、個人差があることは置いておいて、やがて小学校入学を考えると、一斉（いわゆる集団の中で指示を聞いて理解し行動する）療育は大切なスキル育成となるので、どこまでそれに順応できるように育成しておくかは児童発達の重要な役割だと考えます。